

# ネガティブなニュースを「好む」のは誰か？

Who “prefer” the negative news?

村上幸史\*

Koshi MURAKAMI

## Abstract

The news reported on television, newspapers, and the Internet is often negative, such as accidents, crime, and trouble. In this study, we tested whether the existence of a limited view of resources, which is assumed to exist in people who have only a certain amount of resources to succeed and are competing for them, is related to the level of interest in negative news and changes feelings toward the target person and subjective well-being.

The results of the two experiments showed that, in general, those with a limited view of resource were more likely to have an interest in negative news and were linked to subjective well-being. In particular, blaming of others in the news as the third-party was likely to be linked to subjective well-being.

キーワード：主観的幸福感・ニュース・しろうと信念

## 1 問題

テレビや新聞、ネットなどで報じられるニュースは、事故や犯罪、トラブルなどネガティブなものが多いと言われている。その理由として、しばしば耳にするのは「人の不幸は蜜の味」という表現である。果たして、他者に生じたネガティブなニュースは、万人に好まれているものだろうか。

この問題を考えるにあたり、何かと比較した相対的な幸福感の存在が想定される。比較の対象としては、理想の自分や過去の自分や将来の期待などとの比較が挙げられるが（北條, 2010<sup>1)</sup>; 金井, 2018<sup>2)</sup>）、中でも Lyubomirsky & Ross (1997)<sup>3)</sup> は他者との比較に着目し、幸福感が低い者は他者の様子を意識しやすく、それが自己評価と関連することを示している。

相対的剥奪理論によれば、幸福感が低い者はより不幸な者と比較を行うことで、相対的な幸福感を高めている可能性がある。相対的剥奪 (relative deprivation) というのは、人が達成したいと思っている水準と、現実には達成された水準とのギャップから生じる不満のことである。特に社会学の分野ではこの不満が絶対的な基準による判断ではなく、集団内の他者との比較から生じる相対的なものとして、分析がなされてきた。

この他者との比較のうち、本研究で注目するのは「成功するための資源が一定量しかなく、取り合いになる」という、対人間に仮定される資源の限定観の存在である。このような資源の限定

---

\*関西国際大学 現代社会学部

観は、科学的な検証を経ていない、あるいは否定されているが一般に信じられているしろうと信念 (lay belief) やしろうと理論 (lay theory) と呼ばれている考え方であるが、一般的には広く判断に用いられていることが知られている。

村上 (2019)<sup>4)</sup> は、この「対人的定量感」が主観的幸福感を低下させることを示している。この「対人的定量感」は、身近な人物や世間一般の人物に対する、幸福や愛情などのポジティブ感情を主とした「感情」カテゴリ、運や流れ、人気などの「勢い」カテゴリ、出会いや人脈、アイデアなどの「成功資源」カテゴリという3カテゴリに分類され、カテゴリにより多少の違いはあるが、概して「対人的定量感」を持つ者は、不幸を実感する程度や現状の不正感が高いことが示されている。

とりわけ注目すべきなのは、「対人的定量感」を持つ者は競争的達成動機と結びつく「たとえ自分が成功した場合でも、他者に勝っていないと幸福とは思えない」に代表される「成功の位置づけ」得点や「他人と比べて、自分が不幸であると実感することがある」という「他者との相対的不幸」得点も高かった点である。「自分の幸福を奪う存在」としての他者は価値の比較対象であり、相対的に幸福感を低下させる原因になっていると考えられる。

比較対象としての他者に対しては、他者に生じた出来事、とりわけ他者に生じた不幸な出来事を喜ぶ感情が派生することが問題視されている。このような人の不幸を喜ぶ感情はシャードンフロイデと呼ばれている。冒頭で挙げた「人の不幸は蜜の味」とは、このような感情を指している表現である。

このような感情が生じやすい状況について、澤田 (2008)<sup>5)</sup> は仮想的な人物に関するシナリオを用いて、自分より有利な状況 (内定をすでに得ているや高級な暮らしをしている) 相手に対して、このシャードンフロイデが喚起されやすいことを示している。シャードンフロイデはそれ相応の理由があり、他者に生じた不幸な出来事が相応なものだと判断されている場合に生じやすいとされており (e.g., van Dijk et al. (2005)<sup>6)</sup>; 澤田 (2008))、不幸なニュースは同情よりも関心を引き起こしている可能性がある。

これらのシナリオで用いられた人物は、身近な人物を仮定している。Tesser<sup>7)</sup> が示した自己評価維持モデルによれば、心理的距離が近い人物に比較は生じやすいというモデルが立てられている。ただし一般的なニュースにおける関心の程度を鑑みて、人の不幸に関心を寄せる要因が「対人的定量感」から生じているとすれば、世間一般の人物に対しても意識される「対人的定量感」は、身近な対象だけではなく、幅広い対象の人物に対しても、このような感情を喚起する可能性があると考えられる。

以上の知見から、本研究では、この「対人的定量感」がネガティブなニュースの関心度合いと関連しており、対象人物への感情や主観的幸福感を変化させるという仮説を立て、新聞記事の分類を元に、ニュース記事に対する判断を調べる実験を行い検討した。

## II 研究1

### 1. 方法

読売新聞と毎日新聞 (各全国版) の社会面の記事を用い、2001年から2012年までの12年間のうち、各月1日分の記事をランダムに抽出した。これらの記事について、その報道内容がポジティブ、ネガティブ、ニュートラル、その他に分類した。記事数は読売新聞が750記事、毎日新聞が

755 記事の計 1505 記事である。

ポジティブな記事は表彰や記録,結婚など,ネガティブな記事は死亡記事,事故,犯罪,天災など,ニュートラルな記事は販売予告,特集・連載記事などである。なお,裁判結果の記事はポジティブとネガティブの双方に該当するため,その他に分類した。

## 2. 結果

各紙の記事の割合を Table1 に示した。両紙の割合にはほぼ差がなく,全体としては,ネガティブな記事が 56.2%を占めたのに対して,ニュートラルな記事が 33.9%,ポジティブな記事は 4.0%しか見られなかった。ネガティブな記事内容では多い順に,犯罪 (351 記事),死亡記事 (151 記事),事故 (113 記事),違反・ミス (83 件),トラブル・クレーム (47 記事)であった。

Table1 記事内容の割合

	ネガティブ	ニュートラル	ポジティブ	その他
読売	398(53.1%)	282(37.6%)	23(3.1%)	47(6.3%)
毎日	448(59.3%)	228(30.2%)	37(4.9%)	42(5.6%)
計	846(56.2%)	510(33.9%)	60(4.0%)	89(5.9%)

## Ⅲ 研究 2

### 1. 方法

**参加者** 大学生 53 名 (男性 26 名,女性 27 名)。全てのセッションに参加していない者を除いた 38 名 (男性 19 名,女性 19 名) を分析対象とした。

**手続き** 第一セッションとして,参加者には「幸福と幸運に関する調査」として,質問紙に回答を求めた。2 週間後に「ニュースに関する調査」を行うことを説明し,質問紙に回答を求めたあと,新聞記事を印刷したものを配布した (第二セッション)。記事は現実に生じた「毒物発言で失職」「落書きで野球部監督を解任」「飲酒運転をつぶやき停学」という 3 つの記事から構成されており (付録参照),いずれも内容は加害者の責任でネガティブな結果を招いたものになっている。その内容を読んでもらった後,内容について再度回答を求めた (第三セッション)。

**回答項目** 第一セッションで回答を求めた項目は,運に関する態度項目,主観的幸福感尺度 (SHS; 島井ら, 2004<sup>8)</sup>),一般的な生活満足度尺度 (SWLS; 大石, 2009<sup>9)</sup>) である。これに加えて,他者の不幸に関する尺度の 2 因子 (「同情」因子と「シャーデンフロイデ」因子) (澤田, 2008) に加えて,「幸福だ」「不幸だ」「ざまあみろ」など感情に関する項目 (7 段階) についても回答してもらった。

第二セッションでは,第一セッションで配布した記事を含めた 10 種類のニュース記事についてタイトルのみを提示し,その認知度と関心の程度 (5 段階) に回答してもらった。加えて,資源の限定観に関する項目 (村上, 2019) についても回答してもらった。このうち「対人的定量感 (世界,自分の周り)」の項目については,村上 (2019) を元に「感情」(幸福や愛情など)・「勢い」(運や人気など)・「成功資源」(チャンスや出会いなど) の 3 カテゴリーに分類して用いた。

第三セッションでは,記事ごとに第一セッションと同じ感情に関する項目に加えて,この記事の対象人物が「どの程度非難を受けるべきだと思うか (自己非難)」,「記事になった当時は,読者はどの程度彼を非難していたと思うか (他者非難)」について 7 段階で回答してもらった。

加えて、主観的幸福感尺度とニュースへの接触度合いについても回答を求めた。ここで主観的幸福感尺度を再度測定したのは、記事を読むことによる変化を確認するためである。

## 2. 結果

**ニュースへの関心度** 10種類のニュース記事への認知度は1.39~2.18、関心度は2.16~3.05(各5段階)とあまり高くなかった(Table2)。ポジティブな記事(「滝クライミング(人助け)」と、「タイガーマスク(援助)」,「松本清張賞」)についての関心度は2.49,2.89,2.38であった。

この関心度に関して、「対人的定量感」による差異,とりわけ記事の種類による差異が見られるかを検討するために、「対人的定量感」各得点を平均値でそれぞれ二分し(以下同じ手続きにより区分),高低を独立変数として分析したところ,ポジティブな記事を含めて,「感情」カテゴリー高群の方が関心度は低かった。「対人的定量感」カテゴリー得点の各相関係数は,「感情」と「成功資源」が $r=.61$ ,「感情」と「勢い」が $r=.21$ ,「成功資源」と「勢い」が $r=.52$ であった。

Table2 記事内容の判断割合

	記事の種類	認知度	関心度	「感情」低群	「感情」高群	t値
滝クライミング	ポジティブ	2.18	2.49	2.81	2.24	1.47
タイガーマスク	ポジティブ	1.53	2.89	3.44	2.48	2.06 **
毒物発言	ネガティブ	1.68	2.49	2.69	2.33	1.00
産み分け	ニュートラル	1.68	2.16	2.75	1.71	2.95 ***
落書き解任	ネガティブ	1.95	2.43	3.25	1.81	4.05 ***
松本清張賞	ポジティブ	1.45	2.38	2.88	2.00	2.31 ***
天の川	ニュートラル	2.13	3.05	2.94	3.14	0.45
飲酒運転	ネガティブ	2.11	2.76	3.13	2.48	1.59
三角形	ネガティブ	1.89	2.73	3.06	2.48	1.57
ツイッター	ネガティブ	1.39	2.16	2.63	1.81	2.39 **

\*\*\*:  $p<.01$ , \*\*:  $p<.05$ で有意差が見られたことを示す

Table3 記事内容別の各非難得点

	自己非難		他者非難		シャーデンフロイデ得点	
	研究2	研究3	研究2	研究3	研究2	研究3
毒物発言	5.58	2.47	5.92	6.06	13.89	26.12
飲酒運転	4.82	2.20	5.21	4.06	16.08	23.76
落書き	4.97	2.71	5.08	4.90	12.92	27.59

**ニュースと感情判断** 第三セッションで提示した3つのネガティブな記事に関して,シャーデンフロイデ感情得点に関しては全体的に値が高くなかったが,「飲酒運転」のニュースが最も高く,自己非難と他者非難については「毒物発言」のニュースが最も高かった(Table3)。

これらの感情評定に関して,「対人的定量感」とネガティブ感情の関連性を調べるために,「対人的定量感」の高低を独立変数として分析したところ,まずシャーデンフロイデ感情得点については,「飲酒運転」と「落書き」のニュースでは「感情」カテゴリー高群の方が得点は高かった。「毒物発言」のニュースでは,「成功資源」カテゴリー高群の方が得点は高かった。概して,「感情」・「成功資源」カテゴリーについては,カテゴリー高群の方がシャーデンフロイデ感情得点は高い傾向にあった。

自己非難と他者非難については、「勢い」カテゴリー高群の方が、「飲酒運転」と「落書き」のニュースにおいて自己非難の程度が低かった。また「感情」カテゴリー高群の方が、「飲酒運転」と「落書き」のニュースにおいて他者非難を推測する程度が低かった。「毒物発言」のニュースでは、逆に「成功資源」カテゴリーで自己非難、他者非難の両方ともに、カテゴリー高群の方が高かった (Table4)。

Table4 「対人的定量感」による各非難得点 (研究 2)

	シャーデンフロイデ得点			自己非難の程度			他者非難の推測			
	「対人的定量感」	低群	高群	t値	低群	高群	t値	低群	高群	t値
毒物発言	「感情」	11.95	16.56	1.97 *	5.69	5.50	0.36	6.19	5.73	1.01
	「成功資源」	12.71	15.93	1.31	4.79	6.04	2.58 **	5.43	6.21	1.72 *
	「勢い」	14.63	12.64	0.79	5.29	5.75	0.89	5.86	5.96	0.22
飲酒運転	「感情」	14.00	18.94	1.85 *	5.19	4.55	1.01	5.75	4.82	2.09 **
	「成功資源」	15.75	18.36	1.29	5.36	4.50	1.44	5.50	5.04	0.96
	「勢い」	16.33	15.64	0.24	5.79	4.25	2.76 **	5.64	4.96	1.46
落書き	「感情」	11.55	14.81	1.52	5.31	4.73	1.13	5.56	4.73	1.90 *
	「成功資源」	11.38	15.57	1.94 *	4.93	5.00	0.22	5.14	5.04	0.83
	「勢い」	12.08	14.36	1.01	5.64	4.58	2.08 **	5.36	4.92	0.95

\*\*：p<.05, \*：p<.10で有意差が見られたことを示す

**幸福感との関連** 「対人的定量感」と主観的幸福感の関連性を調べるために、「対人的定量感」の高低を独立変数として分析したところ、「対人的定量感」のうち、「成功資源」のカテゴリーのみ全般的な生活満足度尺度得点が低かった。主観的幸福感尺度得点については差が見られなかった (Table5)。またセッション間での主観的幸福感尺度得点については差が見られなかった (前：17.38, 後：17.49)。ネガティブ感情と主観的幸福感との関連については、シャーデンフロイデ感情得点について強い相関ではなかったが、全般的な生活満足度尺度得点や主観的幸福感尺度得点とは正の相関を示していた (Table6)。

Table5 「対人的定量感」による主観的幸福感の程度 (研究 2)

	SWLS			SHS		
	低群	高群	t値	低群	高群	t値
「感情」	18.56	18.45	0.06	17.40	17.36	0.02
「成功資源」	21.29	16.88	2.65 **	18.50	16.70	1.22
「勢い」	19.14	18.13	0.56	17.85	17.13	0.47

\*\*：p<.05, \*：p<.10で有意差が見られたことを示す

Table6 シャーデンフロイデ得点と主観的幸福感の相関 (研究 2)

	SWLS (事前)	SHS (事前)	SHS (事後)
毒物発言	.28	.17	.05
飲酒運転	.15	.02	-.03
落書き	.12	.24	.20

### 3. 考察

全般的には「対人的定量感」はネガティブなニュースと関連が見られたが、その対象に対してネガティブな印象を持つ程度は「対人的定量感」の種類や記事により異なっていた。対象人

物に関するシャーデンフロイデ得点は、「感情」・「成功資源」カテゴリ高群で全般的に高くなる傾向にあったが、自己非難や他者非難の程度の傾向を見ると、「対人的定量感」を有することで対象者に対して非難するほどの強い傾向は見られなかった。

またニュースに接することによるセッション間での幸福感の変動も見られなかった。この主観的幸福感については、現状の満足感を測定する SWLS にて「成功資源」カテゴリによる個人差が見られたことや、「毒物発言」に限ってではあるが、自己非難や他者非難の程度が高かったことから、人的資源などの「成功資源」に関する「対人的定量感」を持つ者が、ネガティブなニュースに接することで他者に対する非難を高める傾向があるのかもしれない。

これらの結果は記事の対象者と回答者との年齢差による影響も考えられるが、大学生の「飲酒運転」と中年男性の「落書き」は年齢層も異なり、中年女性の「毒物発言」との非難傾向の違いは、事件の内容によるのかもしれない。本実験では「自業自得」的な記事への関心度に注目したが、記事内容については検討の余地があるかもしれない。

またポジティブ記事への関心は、ネガティブ記事と比べて低くないことが分かった。また「対人的定量感」を持つ者の方が、全般的にニュースに対する関心は逆に低い傾向にあった。

#### IV 研究 3

研究 2 の結果では「対人的定量感」はネガティブなニュースの好みと関連していたが、その対象に対してネガティブな印象を持つ程度は「対人的定量感」の種類や記事により異なっており、また幸福感の変動も見られなかった。

この要因として、紙記事を用いて、結果の照合のために、質問用紙に記入させた影響が考えられた。本研究では web 上で匿名性を確保して同様の実験を行い、その効果を再検討した。

##### 1. 方法

**参加者** 大学生 51 名。研究 2 で差異が見られなかったことと、また以下の手続きのように、匿名性を保つため、性別の記入は求めなかった。

**手続き** 参加者には「ニュースに関する調査」を行うことを説明し、web 上の質問項目に回答を求めた。web は 4 ページから構成されており、初めの 3 ページは記事とその記事に関する回答項目となっている。記事内容は加害者の責任でネガティブな結果を招いたものであり、研究 2 で用いたものと同記事である。また最後のページでは、その他の項目に回答を求めた。匿名性を確保するため、各ページで統一した ID (ランダムに配布した数字) を記入してもらうことで、集計は ID を照合して行った。

**回答項目** 記事を読んだ後に回答を求めた項目は、他者の不幸に関する尺度の 2 因子と「幸福だ」「不幸だ」「ざまあみろ」など感情に関する項目 (7 段階) と、記事の対象人物が「どの程度非難を受けるべきだと思うか (自己非難)」、「記事になった当時は、ニュースの一般的な読者はどの程度彼を非難していたと思うか (他者非難)」(7 段階) である。

また最後のページで求めたその他の項目は、資源の限定観に関する項目のうち、「対人的定量感 (世界、自分の周り)」の 18 項目である。これらは「感情」(幸福や愛情など)・「勢い」(運や人気など)・「成功資源」(チャンスや出会いなど) の 3 カテゴリに分類して用いた。この他に、尋ねた項目は主観的幸福感尺度、全般的な生活満足度尺度、ニュースへの関心度合いである。

各項目は、主観的幸福感尺度をセッションの最後にのみ測定を行った点以外は研究 2 に準じている。

## 2. 結果

**ニュースと感情判断** 3つのネガティブな記事に関する平均値については、研究2と比較すると、「どの程度非難を受けるべきだと思うか」という自己非難の値はかなり低く、シャーデンフロイデ感情得点はかなり高かった (Table3 参照)。「対人的定量感」カテゴリー得点の各相関係数は、「感情」と「成功資源」が  $r=.49$ 、「感情」と「勢い」が  $r=.36$ 、「成功資源」と「勢い」が  $r=.33$  であった。

これらの感情評定に関して、「対人的定量感」とネガティブ感情の関連性を調べるために、各「対人的定量感」の高低を独立変数として分析したところ、まずシャーデンフロイデ感情得点については、「毒物発言」と「落書き」のニュースでは「感情」カテゴリー高群の方が得点が高く、また「飲酒運転」のニュースでは、「勢い」カテゴリー高群の方が得点が高い傾向が見られた (Table7)。「毒物発言」と「落書き」のニュースについては、他者の不幸に関する項目のうち「ざまあみろ」という項目でも同様の傾向が見られた。

次に自己非難については、「毒物発言」のニュースでは「勢い」カテゴリー高群の方が、「落書き」のニュースでは「感情」カテゴリー高群の方が得点が高い傾向が見られた。他者非難については、「飲酒運転」と「落書き」のニュースで同様の傾向が見られた。基本的にはシャーデンフロイデ感情得点、自己非難、他者非難において、「対人的定量感」の高群の方が得点は高かった (Table7)。

Table7 「対人的定量感」による各非難得点 (研究 3)

	シャーデンフロイデ得点			自己非難の程度			他者非難の推測					
	低群	高群	t値	低群	高群	t値	低群	高群	t値			
毒物発言	「感情」	24.09	27.66	2.14	**	2.09	2.76	1.25	6.14	6.00	0.36	
	「成功資源」	25.08	27.12	1.20		2.28	2.65	0.70	5.92	6.19	0.73	
	「勢い」	25.05	26.93	1.10		1.86	2.93	2.05	**	6.27	5.90	1.00
飲酒運転	「感情」	22.64	24.62	1.05		1.95	2.38	0.95	3.64	4.38	1.45	
	「成功資源」	23.72	23.81	0.05		2.04	2.35	0.69	3.84	4.27	0.83	
	「勢い」	21.45	25.52	2.22	**	1.82	2.48	1.51	3.41	4.55	2.29	*
落書き	「感情」	24.50	29.93	2.96	***	2.23	3.07	1.80	*	4.82	4.97	0.32
	「成功資源」	25.64	29.46	2.02	**	2.48	2.92	0.94	4.88	4.92	0.09	
	「勢い」	26.50	28.41	0.97		2.36	2.97	1.27	5.36	4.55	1.83	*

\*\*\*:  $p<.01$ , \*\*:  $p<.05$ , \*:  $p<.10$ で有意差が見られたことを示す

**幸福感との関連** 「対人的定量感」と主観的幸福感との関連性を調べるために、各「対人的定量感」の高低を独立変数として分析したところ、まず「対人的定量感」と主観的幸福感の関連性については、「対人的定量感」の全てのカテゴリーで、高群の方が主観的幸福感尺度得点は低かった。全般的な生活満足度尺度得点については、「成功資源」のカテゴリーのみ同様の傾向が見られた (Table8)。

Table8 「対人的定量感」による主観的幸福感の程度 (研究 3)

	SWLS			SHS				
	低群	高群	t値	低群	高群	t値		
「感情」	17.86	16.79	0.66	17.77	15.21	1.83	*	
「成功資源」	18.68	15.88	1.78	*	17.76	14.92	2.04	**
「勢い」	17.36	17.17	0.12	18.05	15.00	2.20	**	

\*\* :  $p<.05$ , \* :  $p<.10$ で有意差が見られたことを示す

上に挙げたように、「毒物発言」と「落書き」のニュースでは、「感情」カテゴリ高群の方がシャーデンフロイデ感情得点は高かったが、元々の主観的幸福感の個人差を加味して、主観的幸福感尺度得点（SHS）を平均値で二分し、各「対人的定量感」の高低とともに独立変数として分析したところ、主観的幸福感尺度低群の方が「対人的定量感」を持つほど、シャーデンフロイデ感情得点が高いという交互作用が見られた（「毒物発言」：F(1,47) = 3.64, p < .10; 「毒物発言」：F(1,47) = 3.04, p < .10, Figure1 及び Figure2 参照）。またこの傾向は「飲酒運転」のニュースで、「勢い」カテゴリとの間にも見られた。

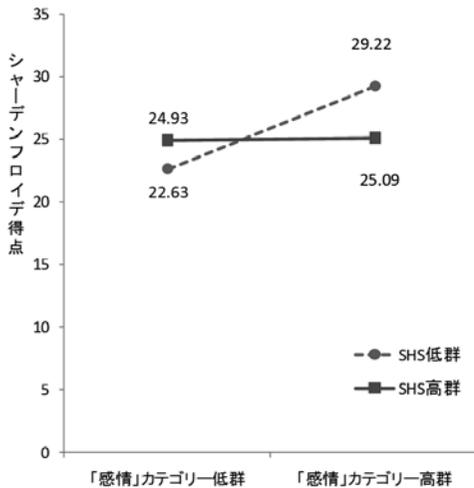


Figure1 「感情」カテゴリと主観的幸福感によるシャーデンフロイデ得点(毒物発言)

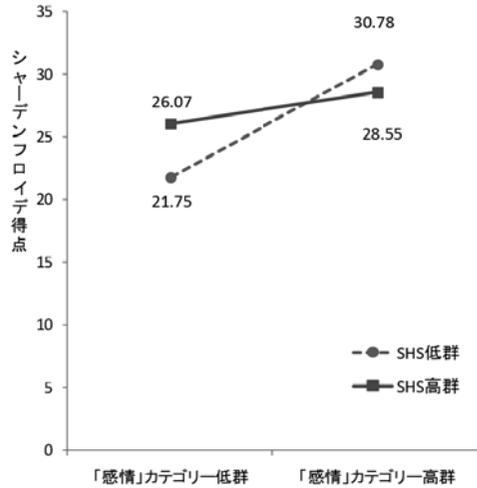


Figure2 「感情」カテゴリと主観的幸福感によるシャーデンフロイデ得点(落書き)

研究2で弱い関連性が見られたシャーデンフロイデ得点と主観的幸福感との関連については、「飲酒運転」と「毒物発言」のニュースで、全般的な生活満足度尺度得点（SWLS）と正の相関を示していた（Table9）。

Table9 シャーデンフロイデ得点と主観的幸福感の相関(研究3)

	SWLS	SHS
毒物発言	.26	-.18
飲酒運転	.37	.00
落書き	-.07	-.06

### 3. 考察

研究3では、全体として「対人的定量感」を持つことで、ネガティブなニュースの対象人物に対する非難の程度が高まり、また主観的幸福感尺度が低い者が「対人的定量感」を持つことで、シャーデンフロイデ感情が高まるという傾向から、ニュースに接することが主観的幸福感と関

連していることが示された。

ただし匿名性を高めた反面、研究 2 の実験と比較して、回答者自身が対象者を直接非難する傾向の値は大きく低下していた。他者が非難するだろうという推測の値は高かったことから、ニュースが取り上げられることで、第三者的に他者が非難されていることが、主観的幸福感に結びついている可能性が高いと考えられる。

他者推測においての記事による傾向の違いは、「飲酒運転」の対象者は学生であり、中年男性や女性の「落書き」や「毒物発言」と対象の年齢層が異なったことにより、「飲酒運転」のニュースとは、顕著な差異が見られたのではないかと考えられる。

本研究では「対人的定量感」がネガティブなニュースの関心度合いと関連しており、対象人物への感情や主観的幸福感を変化させるという仮説を立てた。両実験の結果からは、ニュースへの関心度合いが元々高いとは言えないが、他者の不幸な出来事のニュースに接することで対象人物に対する感情、とりわけシャーデンフロイデ感情が高くなることが示されたと言える。

ただしニュースに接することにより、主観的幸福感自体が変化するという傾向は示されなかった。本研究では日常的な満足感尺度（SWLS）と主観的幸福感尺度（SHS）の 2 つの指標を用いたが、この結果からは主観的幸福感（SHS）は「対人的定量感」と結びついているが、直接ニュースへの関心とは関連していないと考えられるのに対して、シャーデンフロイデ感情と日常的な満足感（SWLS）については、中程度ではあるが正の相関が見られたのは興味深い結果である。ニュースに接することで幸福感を変化させるというよりも、日常的な満足感が低い者が他者の不幸に接することで満足感を満たすという構造があるのかもしれない。

本研究の問題点としてはニュースの内容や実験的にこちらからニュースを提示したことが挙げられる。ニュースの内容としては澤田（2008）がまとめているように、シャーデンフロイデ感情が生じる状況は、他者に生じた不幸の種類については問わないとしているが、「対人的定量感」を持つ者が、どのように関心のあるニュースを選択しているかについては、別に探る必要があるだろう。

## 【付記】

この研究は日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（B）23730596）の助成を受けた。また日本心理学会第 78 回大会、日本心理学会第 79 回大会で発表された。

## 【引用文献】

- 1) 北條英勝（2010）．「現代社会における「幸福」と「不幸」（特集：いま、幸福を考えるー比較思想の観点から）」『比較思想研究』, 37, 28-36.
- 2) 金井雅之（2018）．「<研究の現場から> 相対的比較と幸福度：アジア 7 ヶ国・地域の比較」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』, 4, 81-98.
- 3) Lyubomirsky, S., & Ross, L.（1997）. Hedonic consequences of social comparison: A contrast of happy and unhappy people. *Journal of Personality and Social Psychology*, 73, 1141-1157.
- 4) 村上幸史（2019）．「資源の限定観と主観的幸福感の関連性」『神戸山手大学紀要』, 21, 71-80.
- 5) 澤田匡人（2008）．「シャーデンフロイデの喚起に及ぼす妬み感情と特性要因の影響」『感情心理学研究』, 16, 36-48.

- 6) van Dijk, W. W., Ouwerkerk, J. W., Goslinga, S., & Nieweg, M. (2005) . Deservingness and Schadenfreude. *Cognition and Emotion*, 18, 933-939.
- 7) Tesser, A. (1991) . Emotion in social comparison and reflection processes. In J. Suls & T. A. Wills (Eds.), *Social comparison: Contemporary theory and research*. (pp. 115-145) . Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates.
- 8) 島井哲志・大竹恵子・宇津木成介・池見陽・Sonja Lyubomirsky (2004) . 「日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale: SHS) の信頼性と妥当性の検討」 『日本公衆衛生雑誌』, 51, 845-853.
- 9) 大石繁宏 (2009) . 『幸せを科学する—心理学からわかったこと』 新曜社

## 【付録】

### 実験で利用した記事

#### ・「飲酒運転をつぶやき停学」

福岡大（福岡市）は26日、飲酒運転の事実をツイッターでつぶやいた商学部3年の男子学生（20）を3カ月の停学処分にした。学生は何を運転していたかを書き込んでいなかったが、実際は自転車だったという。

福岡大によると、学生は9日未明、アルバイト先の飲み会に参加後、自転車で帰宅し、直後に携帯電話からツイッターに「飲酒運転は久しぶりでハラハラした」などと投稿。大学側に苦情が寄せられていた。福岡県は昨年、飲酒運転による人身事故件数が全国最多。大学も学生に飲酒運転をしないよう指導していた。（「サンケイスポーツ」, 2011/7/27）

#### ・「毒物発言で失職」

放射能を巡って「公職の立場にふさわしくない発言をした」などとして、桐生市議会は20日、庭山由紀市議（43）（2期、無党派）の除名を求める懲罰動議を賛成多数で可決した。庭山市議は地方自治法の規定に基づき、即日失職した。今後の対応は「支持者と相談して決める」としている。

庭山市議は5月25日、自身のツイッターで、市役所前にとまっている献血車の画像とともに、「放射能汚染地域に住む人の血って、ほしいですか」と発信。今月8日の議会運営委員会では、国の財政負担で自治体が放射性物質の除染を行う「汚染状況重点調査地域」に指定された桐生市産の農作物を「毒物」と発言した。（「読売新聞」, 2012/06/21）

#### ・「落書きで野球部監督を解任」

常磐大高（水戸市新荘）野球部の監督（30）がイタリア・フィレンツェの「サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂」に落書きした問題は、監督解任という事態に発展した。学校関係者は「優秀な監督だったのに」と悔やみ、5日の県大会開幕を目前に、部員らに動揺が広がることを心配した。

浅岡広一校長は30日、水戸市内で記者会見し「教育機関に勤務する者として恥ずべき行為だ。イタリア国民と大聖堂に迷惑をかけた」と述べ、深々と頭を下げた。今後、イタリア大使館を通じて大聖堂側と協議し、落書き消去を検討していることを明かした。（「読売新聞」, 2008/7/21）